

小 児 科

1. 臨床医学教育の現状と評価

(1) 臨床医学教育の目標

- 1) 小児の発育特性を理解し、総合的に診療することができる。
- 2) 小児の一般診察法、検査手技を習得する。
- 3) 小児特有の疾患の診断、加療ができる。
- 4) 分娩立ち合い、新生児管理ができる。
- 5) 患者および家族へ適切なインフォームドコンセントができる。

(2) 医員、医員（研修医）の現状と研修実績

1) 初期研修医の現状について

a. 研修実績について（対象期間：平成9年度～12年度）

入局者数と本院での研修期間（月数：平均値）

年 度	9年度	10年度	11年度	12年度
入局者数	1人	3人	2人	2人
研修期間	12ヶ月	12ヶ月	12ヶ月	12ヶ月

b. ローテート方式研修の実績

平成9年度：0人

平成10年度：0人

平成11年度：0人

平成12年度：2人、研修した他科名：麻酔科、放射線科

2) 医員の受入れ状況（対象期間：平成9年度～12年度）

年 度	9年度	10年度	11年度	12年度
採用者数	2人	2人	1人	2人

(3) 指導体制について

- 1) 小児科学会認定医が、マンツーマンで病棟患者の診療指導にあたる。
- 2) カンファレンス、研究会などを通じて、知識を深める。

(4) 研修の評価について

- 1) スタッフ会議において、研修の到達度を評価する。
- 2) 指導医が適宜評価する。

(5) 関連研修施設の現状

- 1) 大分県立病院
- 2) 国立療養所西別府病院
- 3) 国立療養所宮崎病院
- 4) 国立療養所八雲病院
- 5) 大分医師会立アルメイダ病院
- 6) 健康保険南海病院
- 7) 厚生連鶴見病院
- 8) 藤本小児病院
- 9) 別府発達医療センター

(6) 臨床教授

梶原 真人（大分県立病院 新生児科部長）

井上 敏郎（大分県立病院 小児科部長）

（7）認定医・専門医・指導医の取得状況（平成9年度－12年度）

- 1）日本小児科学会／認定医 9 名
- 2）日本小児神経学会／認定医 1 名
- 3）日本てんかん学会／認定医 1 名

（8）学会認定施設の状況

日本小児科学会認定研修施設

※今後の課題と改善策

・学会参加、発表の機会を増やす必要がある。

2. 臨床医学研究の現状と評価

（1）臨床医学研究の目標

神経疾患の病因および予後を画像診断、分子生物学的特性、DNA解析を用いて検討する。

（2）研究スタッフ

教授 1 名、助教授 1 名、講師 0 名、助手 7 名

実験助手（非常勤職員を含む） 2 名

事務職員（非常勤職員を含む） 2 名

（3）研究領域と研究課題（対象期間：平成9年度－12年度）

主な研究課題名

- 1）母乳ミルクのガングリオシドの分析と生理学的意義の解明
- 2）てんかん発作波のてんかん焦点の検出、その波及と病巣切除範囲の検討
- 3）新生児・未熟児の自律神経機能、超音波および頭部MRIを用いた中枢神経系の発達
- 4）アレルギー疾患に対する免疫応答の分子生物学的特性と新しい治療法の開発
- 5）神経調節性失神の予後と突然死との関連
- 6）遺伝子、ガングリオシド解析による神経芽細胞腫の予後と微小残存腫瘍の検討

（4）博士（医学）の学位の取得状況（平成9年度－12年度）

年 度	9年度	10年度	11年度	12年度
取得者数	0名	1名	2名	0名

(5) 学会、研究会活動（シンポジウム、特別講演、学会役職等）

年 度	9 年度	10 年度	11 年度	12 年度
学会発表 (国際)	1 回	2 回	1 回	1 回
(国内)	14 回	14 回	15 回	16 回
(地方)	45 回	45 回	34 回	39 回
(司会・座長)	4 回	5 回	4 回	4 回
シンポジウム特別講演等				
(国際)	0 回	0 回	0 回	2 回
(国内)	0 回	0 回	1 回	2 回
(地方)	12 回	6 回	5 回	11 回
(司会・座長)	2 回	2 回	2 回	2 回

学会役職（評議員、理事等）（平成9年度－平成12年度）	
日本小児科学会	泉 達郎（理事） "（代議員） 後藤一也（"）
日本小児神経学会	泉 達郎（評議員）
日本てんかん学会	泉 達郎（"）

(6) 研究論文（英文、和文）（平成9年度－12年度代表論文10編）

- 1) Kojo M, Yamada K, Akiyoshi S, Maeda M, Sato K, Izumi T. Reduction of carotid arterial blood flow in ventricular septal defect associated with severe congestive heart failure. Journal of Neuroimaging 2000 ; 10 : 241-243.
- 2) Korematsu S, Tanaka Y, Hosoi S, Koyanagi S, Yokota T, Mikami B, Minato N. C8 / 119S Mutation of major mite allergen Derf-2 leads to degenerate secondary structure and molecular polymerization and induces potent and exclusive Th1 cell differentiation. Journal of Immunology 2000 ; 165 : 2895-2902.
- 3) Pan XL, Izumi T, Yamada H, Akiyosi K, Suenobu S, Yokoyama S. Ganglioside patterns in neuroepithelial tumors of childhood. Brain & Development 2000 ; 22 : 196-198
- 4) Maeda T, Inutsuka M, Goto K, Izumi T. Transient nonketotic hyperglycinemia in an asphyxiated patient with pyridoxine-dependent seizures. Pediatric Neurology 2000 ; 22 : 225-227
- 5) Hara K, Yamashita S, Fujisawa A, Ishiwa S, Ogawa T, Yamamoto Y. Oxidative stress in newborn infants with and without asphyxia as measured by plasma antioxidants and free fatty acids. Biochemical and Biophysical Research Communications 1999 ; 257 : 244-248.
- 6) Pan XL, Izumi T. Chronological changes in the ganglioside composition of human milk during lactation. Early Human Development 1999 ; 55 : 1-8.
- 7) Goto K, Mirmiran M, Adams MM, Longford RV, Baldwin RB, Boediker MA, Ariagno RL. More awakenings and heart rate variability during supine sleep in preterm infants. Pediatrics 1999 ; 103 : 603-609.
- 8) Sawaguchi K, Ogawa T. Component wave analysis of flash visual evoked potentials in preterm infants. Electroencephalography and clinical Neurophysiology 1998 ; 108 : 62-72.
- 9) Kure S, Maeda T, Fukushima N, Ohura T, Takahashi K, Nishikawa T, Matsubara Y,

Izumi T, Narisawa K. A subtype of pyridoxine-dependent epilepsy with normal CSF glutamate concentration. J Inherit Metab Dis 1998 ; 21 : 431-432.

- 10) Kojo M, Yamada K, Izumi T. Normal developmental changes in carotid artery diameter-measured by Echo-Tracking. Pediatric Neurology 1998 ; 18 ; 221-226.

(7) 高度先進医療開発研究の現状

- 1) 先天性代謝異常および神経疾患の出生前診断
- 2) てんかん焦点の脳磁図およびf-MRIによる検出、同定

※今後の課題と改善策

・脳磁図、f-MRIの導入と活用が望まれる。

3. 診療の現状と評価

(1) 診療の目標

- 1) 医師として患者の診療を第一とし、患者に必要な検査、治療を行う。
- 2) 患者の取り扱い、できるだけ親切丁寧な態度で行う。診療に当たっては、病状、検査事項の意義につき説明し、患者および家族の十分な了解、協力を求める。

(2) 診療実績（平成9年度－12年度）

区 分	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度
外 来 患 者 数	12,114人	11,966人	11,671人	11,134人
初 診 患 者 数	961人	931人	894人	788人
紹 介 患 者 数	319人	296人	294人	296人
入 院 患 者 数	12,688人	13,185人	14,308人	12,937人
平均在院日数	34.6日	31.7日	40.4日	32.0日
平均病床稼働率	89.1%	95.7%	108.6%	98.5%
死 亡 退 院 率	3.0%	2.0%	2.9%	3.3%
部 検 率	0.0%	50.0%	50.0%	30.8%

(3) 特殊検査・手術症例等

- 1) 筋生検、腎生検、24時間脳波、睡眠ポリグラフ、断眠脳波、心臓カテーテル検査、Head-up tilt試験、成長ホルモン負荷試験、アレルギー食除去・負荷（誘発）試験、造血幹細胞移植

(4) 特殊専門外来

- 1) 神経、発達、心臓、新生児、成長、内分泌、血液、腫瘍、アレルギー、喘息、腎臓、心身症、てんかん

(5) 高度先進医療・先端医療の導入

先天性代謝異常症－羊水細胞による出生前診断

※今後の課題と改善策

- ・新生児（NICU）の病床不足→母子周産期医療部の申請
- ・重症伝染性疾患の診療体制、部屋不足→感染症室の申請
- ・小児救急医療→教育・診療体制の確立と医師定員の確保

4. 国際交流について（平成9年度～12年度）

(1) 国際医療協力体制

- 1) 泉 達郎 平成12年8月28日～9月17日 ドミニカ共和国 医学教育センター
 2) 古城 昌展 平成12年10月1日～11月30日 ドミニカ共和国 医学教育センター

(2) 留学（長期外国出張）

- 1) 国立アイバル総合病院医学教育センター（ドミニカ共和国），平成12年8月27日～平成12年9月16日，1名
 2) 国立アイバル総合病院医学教育センター（ドミニカ共和国），平成12年10月1日～11月30日，1名

(3) 外国出張（国際学会活動など）

1) 平成9年

International Neurosonology '97 1人，アメリカ合衆国

2) 平成10年

第8回国際小児神経学会 1人，スロベニア

3) 平成11年

研究打ち合わせ 1人，アメリカ合衆国

Pediatric Academic Societies1999 1人，アメリカ合衆国

8th Meeting of the Neurosonology Research Group of the
 World Federation of Neurology and Asian Symposium on
 Stroke Prevention and Treatment

1人，台湾

4) 平成12年

56th Annual Meeting of American Academy of Allergy
 Asthma and Immunology

1人，アメリカ合衆国

(4) 外国人研究者の受け入れ状況

年 度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度
目 的	大学院生	大学院生	大学院生	
受 入 人 数	1名	1名	1名	
出 身 国 名	中華人民共和国	中華人民共和国	中華人民共和国	
滞 在 期 間	1年	1年	1年	
費 用 負 担	国 費	国 費	国 費	

※今後の課題と改善策

- ・研究・教育をさらに充実させ、留学および国際学会活動を多く行う。
- ・また、ドミニカ共和国における医学教育支援などに積極的に参加する。

5. 国内学会や研究会の開催（平成9年度－12年度）

診療科で担当した地方学会・研究会、全国規模の学会・研究会

学 会 等 の 名 称	開催期日	参加人員	発表形式	その他
第41回日本小児科学会大分地方会	平成9年4月6日	80名	口 演	
第42回日本小児科学会大分地方会	平成9年7月6日	93名	口 演	
第43回日本小児科学会大分地方会	平成9年12月7日	115名	口 演	
第44回日本小児科学会大分地方会	平成10年4月12日	86名	口 演	
第45回日本小児科学会大分地方会	平成10年7月5日	130名	口 演	
第46回日本小児科学会大分地方会	平成10年11月29日	121名	口 演	
第47回日本小児科学会大分地方会	平成11年4月11日	98名	口 演	
第48回日本小児科学会大分地方会	平成11年7月4日	79名	口 演	
第49回日本小児科学会大分地方会	平成11年12月5日	102名	口 演	
第50回日本小児科学会大分地方会	平成12年4月2日	106名	口 演	
第51回日本小児科学会大分地方会	平成12年7月2日	95名	口 演	
第52回日本小児科学会大分地方会	平成12年12月3日	82名	口 演	
第2回日本小児保健協会大分支部例会	平成10年7月5日	130名	口 演	
第3回日本小児保健協会大分支部例会	平成11年7月4日	79名	口 演	
第4回日本小児保健協会大分支部例会	平成11年11月7日	150名	口 演	
第5回日本小児保健協会大分支部例会	平成12年7月2日	95名	口 演	
第6回日本小児保健協会大分支部例会	平成12年11月5日	101名	口 演	

※今後の課題と改善策

- ・全国規模の学会の開催がこの4年間にはなかった。
- ・今後、多くの学会、研究会を主催していきたい。

6. 地域との関わり

診療科で担当した大分県内の研修会、研究会について

※今後の課題と改善策

- ・該当する会の開催がこの4年間にはなかった。
- ・今後、多くの学会、研究会を主催していきたい。

7. 診療科の特色

地域の小児医療の中核を担い、幅広く診療を行っている。二次、三次救急医療を行っている。小児神経分野では、県内外から患者が集まっており、専門的な診断、医療が行えている。

8. 将来展望

地域における小児救急医療体制、周産期医療体制の中核となる。
高度先進医療を行い、専門領域のより充実をめざす。